二〇二三年度 中学校卒業式・後期終業式

# 互いに愛し合う

　青の皆さん、卒業おめでとうございます。またご家族の皆様、お嬢様のご卒業、心よりお慶び申し上げます。
　また本日は中学校卒業式と共に後期、一年の終業式でもあります。一年の学びを終える在校生の皆さん、最後の一日となりました。終礼で、来年度の担任の先生とクラスの発表をします。
　さて、まずはこの一年の笑ったこと、泣いたこと、すべてを感謝して献げ、よい意味で忘れましょう。そしてまだ誰も知らない、新しい年度へスタートしましょう。

　私たちは未来を予測できても、すべてが必ずその通りになることはありません。私たちは歩んできた道をふりかえり、新しい一日一日を迎えます。
　私たちは英和で偶然出会いました。でも、

いま卒業、一年の最後を迎えて、なぜ英和に入学したのか、このクラス、先生だったのか、その意味を考えていませんか。

なぜ、神様は私を英和生に選ばれたのか、このクラスだったのか、今はまだその意味がわかりません。その意味は卒業してから、来年度、新しいクラスメート、先生と出会い、新入生を迎え、共に生活していく中で、そうかそういう意味だったのかと気づき、確かめていくことです。

それは「偶然」だったけど「必然」だったとも言えます。ふり返れば、神様が必要なものを用意されていた、与えて下さったとも言えます。

英和は学院聖句にあったように「愛」を大切にしています。誰もが愛される存在であること、そして互いに愛し合うことです。英和の日々の学びはそれを願い、気づき、確かめる学びだと言っていいでしょう。

感染症、戦争、地震など不安な日々が続きます。誰も願っていることでないはずです。そして誰も予想できることでもありま

せん。どれもが偶然と言えば偶然ですが、とても耐えられない深い悲しみです。

　でもそれを悲しみのままで終わらせるか否かは、私たちが互いに愛し合う機会とするかです。だから、今こそ神様が私たちに必要だと、用意されているのは互いに愛し合うことではないでしょうか。それは英和の日々の祈り、学びで気づき、確かめることです。

　私たちひとり一人は過ちを重ね、足りないものです。そして儚く、脆く、小さく弱い存在です。でも互いに愛し合うことで、永遠の喜びと感謝を覚える存在でもあります。

　青の皆さん、在校生の皆さん、これから迎える新入生、そして新たなステージへ向かうすべての皆さんの上に、神様の祝福と導きをお祈りして、本年度最後の励ましの言葉とします。

二〇二四年三月一九日
静岡英和女学院中学校・高等学校
校長　大 橋 邦 一